

Oct. 7th/2003 at 山上会館 (東大・本郷キャンパス)

ヒュー・メラール教授 講演研究会

東大人社系COE 21世紀プログラム「死生学の構築」
哲学会

「意思決定理論は何を語るのか」

What does decision theory tell us?

Many actions are done as means to ends, as when smokers decide to stop smoking to avoid getting cancer. Decision theories claim to tell us how such decisions depend on the desirability of the end (for example to avoid getting cancer) and on how much adopting the means (stopping smoking) will raise the probability of achieving that end.

These theories are usually taken to be *subjective*. That is, the desirability of an end for an agent is identified with how strongly the agent desires it, and its probability with how strongly the agent believes it will happen. They are also taken to be *normative*, meaning that they are taken to say not necessarily what agents *will* do but what they *should* do if they are to act rationally.

I think this reading of decision theory is mistaken. I shall argue instead for two different but complementary readings of the theory. One takes it to be subjective but *descriptive*, telling us --- rightly or wrongly --- how our beliefs and desires *will* make us act. The other takes it to be normative but *objective*, telling us --- rightly or wrongly --- how whether an end justifies adopting a means depends on the end's objective value and on how much adopting the means raises the objective chance of achieving it.

多くの行為は目的のための手段としてなされる。たとえば、喫煙者がガンにかかるのを避けるため禁煙をしようと思決定するように。意思決定理論は、そうした意思決定が、目的の望ましさ（ガンにかかるのを回避すること）と、その手段（禁煙すること）を採用することで目的達成の確率をどれだけ高められるかという、二つのことにどのように依存しているかを語ると主張する。

これらの理論は「主観的」とであると普通は受け取られている。すなわち、行為者にとっての目的の望ましさは、その行為者がどれほど強くその目的事象を望んでいるかということと同一だし、その確率は、その行為者がどれほど強くその目的事象が生じると信じているかということと同一だとされる。また、それらの理論は「規範的」としても受け取られている。つまり、それらの理論は、必ずしも、行為者が何を行う「だろう」かについて述べているのではなく、もし行為者が合理的に行為するならば何を行う「べき」かについて述べている、とされる。

けれども、こうした意思決定理論の読み方は誤っていると思われる。ここで私は、意思決定理論に関するこうした理解の代わりに、二つの異なった、しかし補足的な、読み方を論じたい。一つは、意思決定理論とは主観的だが「記述的」であり、正しいにせよ間違っているにせよ、私たちは信念と欲求によってどのように行為する「だろう」かを語っているのだ、とする読み方である。もう一つは、意思決定理論とは規範的だが「客観的」とであると捉える読み方である。すなわち、意思決定理論とは、正しいにせよ間違っているにせよ、目的が手段採用を正当化するかどうか、目的の客観的価値にどのように依存しているか、手段採用が目的達成の客観的チャンスを高める度合いにどのように依存しているか、そうしたことを語っているのだ、とする読み方である。